

ゆめ わらわ 夢 亭

菅波 茂

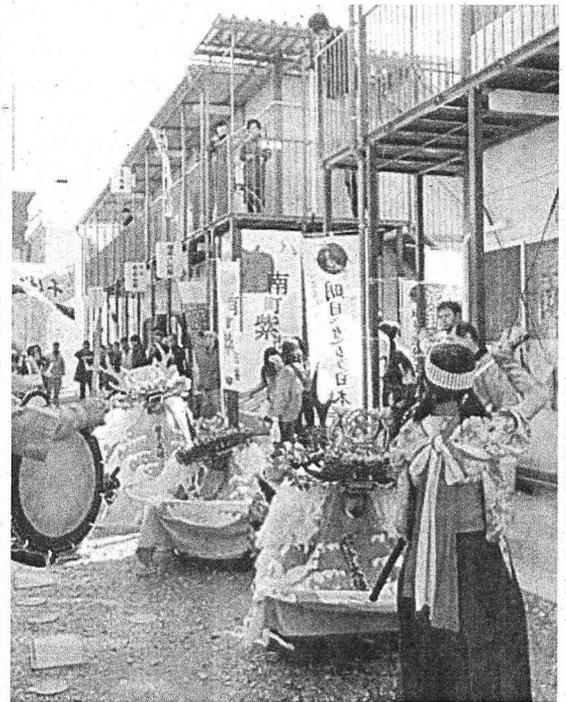
3月4日。宮城県気仙沼市の青龍寺駐車場にて、岩手県上閉伊郡大槌町と気仙沼市間の「つながらう大槌・気仙沼」プロジェクトを開催。大槌町から総勢54人が参加した。設置された舞台では和奏(和太鼓、尺八)の演奏(演奏やSCK)が行われ、大槌町の参加者からは「大槌だけではなく、気仙沼との輪が広がり、東北全体で手を取り合っていくのが理想だなと改めて思った」とのメッセージ。同じ経験をした者同士にしか共有できない思いを分かち合える貴重な一日となった。

「今日は、本当に元気と勇気をもたらした。この企画を1回で終わらせな

4月9日。2回目の交

被災地間交流「ひょうたん島姉妹商店街連携協定」

気仙沼市南町紫商店街を練り歩く大槌町伝統芸能の白澤鹿子踊り



り商店街と気仙沼南町紫市場とが「ひょうたん島姉妹商店街連携協定」を締結した。紅白幕が張られ、仮設商店街の2階からの餅投げなどで祝った。目的は商店街振興や観光振興の包括的な連携である。いずれの町にもひょうたん島があるための命名となった。「被災地間交流プログラム」の具現化である。AMD大槌

健康サポートセンターの役割が明確になった瞬間でもある。緊急救援活動は悲しみの共有である。復興支援活動は喜びの共有である。悲しみは普遍的である。何時でも、何処でも、誰でも共有できる。しかし、喜びは文化である。喜びを共有する「被災」と更なるご支援をお願いしたい。

の文化の象のみならず、阪神大震災や国際社会の被災地との喜びの共有に広がることにより「市民参加型人道支援外交」に厚みをもたらすと確信している。東日本大震災での避難所における「信頼の秩序」は世界の敬意と称賛の的になっている。「救える命があればどこまでも」のスローガンのもとにAMD A多国籍医師団が世界の災害に対応している。いずれも緊急救援活動の次は復興支援活動となる。AMD A大槌健康サポートセンターが、東日本大震災被災地の拠点として、AMD Aの関与する世界の災害の復興支援活動において大きな役割を果たすことを期待している。皆様の暖かいご理解